

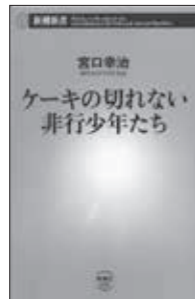


このコーナーでは、男女平等参画をはじめとする様々なテーマの本を紹介します。男女平等推進センター「パリテ」の図書コーナーで貸し出していますので、ぜひ活用ください。



子ども・パートナーの心をひらく「聴く力」
著者：辰由加
出版社：秀和システム

コロナ禍の中、身近な家族の心を開いて話を聴く方法「傾聴」を実践してみましょう。「自分の意見を差し込んだらそれは傾聴ではない」、「短時間で効果がある」など、徹底的に聴いていることが相手に伝わる技術が満載です。



ケーキの切れない非行少年たち
著者：宮口幸治
出版社：新潮社

本書の主人公は人口の10%強いと言われる「境界知能」の子どもたち。当たり前のことが理解できないため、当たり前のことをすることもできない。彼等を非行少年にしないためには、周りがその困っている状況に早い段階で気づき支援することが大切だと教えてくれる作品。



完全版 韓国・フェミニズム・日本
責任編集：斎藤真理子
出版社：河出書房新書

文芸誌の同タイトル特集がさらに充実。K文学の最前線をフェミニズムの視点から紹介。今年に小説「82年生まれ、キム・ジヨン」のベストセラーと映画化、例のあのドラマやKポップでも再注目の韓流。きっと韓国フェミ小説の虜に！厳選ブックガイド付き。

パリテだより

センターパリテでは、さまざまなイベントを開催しています。2020年12月までの主な事業をご報告いたします。



2020年9月12日(土)

知っ得!男性にも役立つ介護術～仕事介護の両立講座～
講師：継枝綾子さん

元ケアマネージャーによる介護準備講座。介護保険等の公的情報、介護する側・される側のメンタルケアを学びました。「ひとりで介護を抱えこまない。介護サービスを利用して自分の息抜きの時間を作る。」という講師の言葉で、私の介護の不安は軽くなりました。



2020年11月18日(水)

「LADY.に生きる!」～子どもが生きるチカラを身に付けるために、親が大人が学ぶこと～
講師：中野宏美さん

「性暴力ゼロ」を目指し活動している中野さんの講座。『高校生の恋愛・性暴力の意識調査』『大学生が制作したデートDV動画』の紹介も有り、「相手と意見が違っても自分の意見を伝えることの大切さ」等を学びました。



2020年10月17日(土)

夫婦で考える! 産前産後の子育てプラン
講師：渡邊大地さん

産後うつ問題や、夫婦で協力して子育てに取り組むための工夫など、パパの視点からお話頂き、多くの共感と発見がありました。初のオンライン講座はリラックスして臨め、夫婦でクイズに解答するなど楽しくてあっという間の2時間でした。

LGBTQ(*)とスポーツを支援「プライドハウス東京」



【プライドハウス東京 URL】
<https://pridehouse.jp>

「プライドハウス東京」は、LGBTQなど性的マイノリティに関する情報を発信しながらホスピタリティ施設を運営、多様性に関連したイベントなどを提供するプロジェクトです。35の団体や専門家、企業、駐日各国大使館などをはじめアスリートやスポーツ関係者とセクターを超えて連携しています。

2020年10月には日本初の大型総合LGBTQセンターを新宿区に開設。読書や待ち合わせ、ひと息つく居場所としての機能のほか、今後は相談支援も検討中です。LGBTQライブラリーも充実し、オールジェンダートイレ、授乳ができるベビールームも完備。現在、オンライン・オフラインでの企画を展開中です。

この「プライドハウス」、2012年バンクーバー冬季オリンピックで、地元NPOが期間限定でホスピタリティ施設を立ち上げたのが始まり。LGBTQ当事者や選手、支援者らが安心して過ごせる場を提供しました。以来、国際スポーツ大会のたびに各地で地元NPOが「プライドハウス」を設立してきたのです。国際ネットワーク「プライドハウス・インターナショナル」も誕生しました。

オリンピックは延期、コロナ禍も中長期化する中だからこそ性的指向や性自認に気兼ねなく安心して繋がれる場をとの思いで、大会に先立ち動き出した「プライドハウス東京」。日本社会によりポジティブな影響をもたらすよう、次世代LGBTQの若者たちのためにも取組を続けています。

(*)Qとは、Questioningの頭文字。自身の性自認や性的指向が決まっていないセクシュアリティの意。

ステキに男女平等参画!

in 西東京

「男性の活躍」編

遊びの本当の楽しさ伝えたい

(社福)ナオミの会 西東京市立ほうやちよう保育園 保育士
諏訪部大輔 さん



大学卒業後に専門学校で社会福祉士の資格を取得し、学童クラブで働きながら保育士の資格も取り、7年前からここで働かせてもらっています。

僕が保育士を選んだ理由は、幼少期に病気がちで思いつき遊びだ経験がないからだと思います。でもだからこそ今は、子どもたちと一緒に遊びを楽しみ、子どもたちの本当の気持ちを読み取ってあげることができるのだと思います。



▲ジッケンくんに変身して、子どもたちの興味を引きつけます

就職先を探していた頃は男性の間口は狭く、僕も一度は断られたのですが、ここの園長先生は「ぜひ一緒に」と採用してくれました。

他の女性の先生たちも仲間として受け入れ、今も男性としての利点を生かせるよう上手に接してくれています。

僕はオリジナルの「変身モノ」が得意で、外遊びのシゼン(自然)くんやジッケン(実験)くん、室内遊びのケンダマン(けん玉)などに扮することもあります。アイデアが浮かんでそれを実行すると、子どもたちの目の輝きがホントに違ってくる!とても分かりやすいですね。それがまたこの仕事の一番のやり甲斐になっていると思います。

今後は、コミュニティとしての保育園として、もっと地域に根差した保育をやっていけたらと思っています。子どもたちの成長を長く見守っていけたらとも思っていて、保育園にもし学童クラブができれば、子どもたちが小学生になってからもまた一緒に遊べるかなと思ったりもします(笑)。